

2022年特別講座

官邸主導の「歴史認識論争」を問う ～ホントの対立軸は何か？～

2月1日、日本政府は「佐渡の金山」を世界文化遺産に推薦する方針を決め、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に登録申請しました。日本政府は、「佐渡の金山において朝鮮半島出身者による強制労働があった」として推薦の撤回を求める韓国政府の意向を無視し、韓国との「歴史戦」に臨む特別チームを官邸に設置しました。強制労働や「慰安婦」問題をめぐる日韓の歴史認識をめぐる対立を「歴史戦」と位置づける日本政府の主張に私たち市民やマスコミも同調して良いのでしょうか？

「歴史戦」の対立軸は日本と韓国の間にあるわけではありません。国家が犯した暴力に向き合い、それを清算することで、被害者の名誉を回復させ、二度と同じ過ちが繰り返されないようにするために闘う人々と自国の国家の犯罪に目を塞ぐことで自国の名誉を維持しようとする人々の間に本当の対立軸はあります。日本にも韓国にもその両者がいます。しかし、「歴史戦」の対立軸を日本と韓国という国家の間にあると捉えてしまうと、国家と個人が一体化してしまい、歴史の事実に向き合うことが困難になってしまうのではないのでしょうか。

このシリーズ企画では、「歴史戦」をめぐって、一体、誰と誰が対立しているのか？ その対立軸を明らかにしていきます。

第1回

3月25日(金)18:30～

『韓国の民主化運動と過去事清算の歩み
～日韓「歴史戦」の本質を問う～』

講師：李泳采（恵泉女学園大学教授）

第2回

4月19日(火)18:30～

『日韓の歴史認識 誰と誰が対立しているのか？～「慰安婦」問題を中心に～』

講師：梁澄子（「慰安婦」問題解決全国行動共同代表）

第3回

5月21日(土) 11:00～

『カナダから見た日本
～歴史認識論争をめぐって～』

講師：乗松聡子（ピース・フィロソフィー・センター代表、「アジア太平洋ジャーナル：ジャパンフォーカス」エディター）

【主催】

日韓和解と平和プラットフォーム日本運営委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-24 NCC気付

電話 (03) 6302-1919

Email: jk.peaceplatform@gmail.com

申込フォーム

[https://forms.gle/
Uph5i4ykSpUYzqS38](https://forms.gle/Uph5i4ykSpUYzqS38)

